

「かかわり」



みる

- 授業中、休み時間、始業前、放課後、登下校のとき、教室移動のとき、給食のとき、清掃のとき、部活動のとき、一人のとき、友人といるとき など
- 表情、視線、姿勢、服装、髪型、持ち物、歩き方、活動の様子、話し方（声の大きさ、声のトーン、言葉遣い） など

はたらきかける

- ことばをかける（ほめる・注意する・挨拶するなど）
- 視線を合わせる、表情で示す（笑顔や厳しい顔など）、身振り・手振りで示す（うなづく・拍手するなど）、肩などに手をおく、そばに行く
- （その場ではあえて）何もしないで見守る

【かかわる】

『人はストロークを得るために生きている』

	肉体的なもの	心理的なもの	言葉によるもの
肯定的 (快)	<ul style="list-style-type: none">・ 肌のふれあい・ なでる・ さする・ 抱擁する・ 握手する	<ul style="list-style-type: none">・ 心のふれあい・ ほほえむ・ うなづく・ 相手の言葉に耳を傾ける・ 受容や共感	<ul style="list-style-type: none">・ ほめる・ なぐさめる・ 励ます・ 語りかける・ 挨拶をする
否定的 (不快)	<ul style="list-style-type: none">・ たたく・ なぐる・ ける・ つねる・ その他の暴力行為	<ul style="list-style-type: none">・ 返事をしない・ にらみつける・ あざわらう・ 無視をする・ 信頼しない	<ul style="list-style-type: none">・ 叱る・ 悪口を言う・ 非難する・ 責める・ 皮肉を言う

杉田（1985）「交流分析」日本文化科学社 90p、

白井ら（1981）「死と闘う人々に学ぶ」医学書院 38 p から一部改変して図示

ほめ方の考え方

(楽々かあさんHP)

	障害特性	リフレーミング (強みの表現に変換)
1	ことばを聞いて理解することが苦手	目で見たと情報は理解しやすい
2	表情や身振りを、誤って理解してしまう	明瞭に (はっきりと) 区別された指示を好む
3	人や場面によって態度を変えられない	ルールをきっちり守ろうとする。物怖じしない
4	他の人の興味あることに関心が薄い	状況に左右されず、自分の好きなことに取り組むことができる
5	全体をとらえて関係性をつかむことが苦手	細部に、強く意識を向けることができる
6	別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手	状況に左右されず、ねばり強く取り組むことができる
7	集団で一斉に行動することが苦手	マイペースに課題を完了することができる
8	「いつ終わる」かを理解するのが苦手	決められたことをやり続けようとする
9	抽象的、あいまいなことの理解が苦手	具体的で、はっきりしたことを好む
10	経験していないことを想像することが苦手	経験したことは、しっかりと覚える
11	特定の物事に強く固執	興味があること (趣味・仕事) に、積極的に取り組める
12	規則することが苦手	繰り返し体験することで記憶する
13	発達 (認知能力) がアンバランス	興味・関心。好きなことは抜群にできる
14	特定の行動を何度も繰り返してしまう	決まったパターンを几帳面に行うことができる
15	期待されていることに注意が向かない	興味・関心があるものに、強く注意・集中を向けることができる
16	特定の感覚が過敏、または鈍い	些細な違いや変化に気が付くことができる、または非常に我慢強い

目的 (なにをねらって?)	内容 (どんなことを?)	方法・留意点 (どうやってほめる?・しかる?)
ほめる 本人の発達・成長のために ①「発達的特質 (知徳体)」 ②「個人的特質 (性格)」 (自信 チャレンジ心等)	・できたこと ・できるようになったこと ・その子にとって伸びたこと ・チャレンジしたこと ・いつもと違うよい行い	・具体的に (何をほめられているのかが理解できるように) ・普段からの本人の発達・成長の把握 (必要に応じて、アンケートや標準検査の活用。特に「変化」を見つけるには、 記録の充実 が重要)
	・本人が喜ぶこと ・本人がうれしいこと	・相手の快感情及び快感情表現の アセスメント (保護者や関係機関からの情報収集 & 普段からの観察とスタッフ間での情報の共有 やはりこれも記録が重要)
	・存在そのものの肯定 ・人格そのものの肯定	・本心でないと見破られる可能性がある (感情も含めた伝えるスキルトレーニングは必須)
	「伝わる」ために・・・	【手順】 ・まず、注目をさせてから ・相手の目を見て ・照れずに 【スキル】 ・ ノンバーバル の活用 (表情、身振り、周りの環境、+ 人に好感を与える身なりや立ち振る舞い) 【意識】 ・何を誉められたいのかを把握 & 意識をして 【工夫】 ・支援者の気持ちや考えを付け加えて (他児者の同意見が加わると効果倍増! = 心理劇補助自我)
しかる ◎ 危険認識 の是正のために ◎ 他者への迷惑 是正のために ◎ 法律違反 の警告のために △ 不適切 なことの減少のために	・危険認識に関わる内容	・必要に応じて感情移入が必要 (ただし、スタンスとしては 冷静 に) ・なぜ危険なのかの理解と次からの行動修正を具体的にインプットする
	・他者への迷惑行為に関わる内容	・何が迷惑になっているのかを相手が理解できるようにしかる (時には、迷惑を受けた相手にその時の感情等を伝えさせることも必要)
	・法律違反の内容	・法律違反の根拠を明確に (「こども六法」という書籍の常備)
	・不適切行動の内容	・目的を決して見失わないこと! (感情的になりすぎない) ・減少の目的のために、「どうすればよいのか」を具体的に理解させる
	「伝わる」ために・・・	【手順】 ・まず、 相手の言い分 を聞くことからスタート 【意識】 ・しかっている 理由 を明確にする ・これから どうするとよいのか を明確にする (一緒に考えるもあり) ・ 短く (3秒~20秒)